

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和 5年 5月 31日現在
(前回公表年月日:令和4年 7月 1日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
関西学研 医療福祉学院	平成10年3月24日	学院長 井坂 恵一	〒631-0805 奈良県奈良市右京1丁目1番5 (電話) 0742-72-0600				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 青丹学園	平成10年4月1日	理事長 岡田 憲太郎	〒631-0805 奈良県奈良市右京1丁目1番5 (電話) 0742-72-0600				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士		
医療	医療専門課程	作業療法学科		平成12年文部科学省 告示第24号			
学科の目的	業界が必要とする人材を、人間性を培うとともに、企業と連携して医療・福祉等に関する専門的知識及び技術を修得させ、広く社会に貢献できる作業療法士を養成する。						
認定年月日	平成27年2月17日						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数 又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼間	3330時間	1710時間	240時間	1125時間	0時間	225時間
		単位時間					
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	91人	0人	7 人	31人	38人		
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各科目ごと各学期に試験を行う A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)合格、D(60点未満)不合格		
長期休み	■夏季:5週間 ■冬季:2週間 ■春季:2週間			卒業・進級 条件	■卒業条件:3年以上在学し、本学科所定の合計3330時間を修得すること。 ■進級条件:各学年において欠席日数が出席すべき日数の3分の1を超える者については、原則進級を認めない。また、認定されない科目(不合格)が1科目でもあれば、原則卒業は認めない。		
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 個別面談、担任及び学科長、保護者による四者面談、学生相談室。			課外活動	■課外活動の種類 スポーツ大会、ボランティア活動、海外研修。 ■サークル活動: 無		
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) 病院、介護老人保健施設。			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和3年度卒業者にに関する令和4年5月1日時点の情報)		
	■就職指導内容 ①就職対策講座 ②履歴書等の資料作成指導 ③模擬面接指導 ④就職説明会の開催10月・11月 等				資格・検定名 種 受験者数 合格者数		
	■卒業者数 : 29 人				作業療法士国家試験 ② 29人 23人		
	■就職希望者数 : 人				※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。		
	■就職者数 : 人				①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの		
	■就職率 : %				②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの		
	■卒業者に占める就職者の割合 : %				③その他(民間検定等)		
■その他 進学者数 0人 (令和4年度卒業者にに関する 令和5年5月1日 (時点の情報))			■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				
中途退学 の現状	■中途退学者 9 名 令和2年4月1日時点において、在学者 107 名 令和4年5月1日時点において、在学者 98 名 ■中途退学の主な理由 進路変更、経済的理由、病気 等 ■中退防止・中退者支援のための取組 個人面談、保護者面談、学費相談(分割納入、奨学金相談等)、補習授業、退学防止委員会の設置。			■中退率 8.4 %			
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・早期受験者特典制度(授業料の一部免除10万円) ・指定校推薦特典(授業料の一部免除10万円) ・部活動特典制度(授業料の一部免除5万円) ・再進学支援制度(授業料の一部免除10万円) ・一人暮らし支援制度(家賃補助賃料の20-40%(上限あり)) ・ライセンス特典制度(授業料の一部免除3万円) ・家族紹介制度(授業料の半額を免除) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 給付実績者 6 名						
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構 受審年月:2021年3月31日 有効期間:2021年4月1日～2026年3月31日						
当該学科の ウェブサイト URL	https://www.seitan.ac.jp/kg/						

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会等において、連携企業・業界の方々の意見・動向・要望等を取り入れ、実践力のある人材を養成すべく、授業内容の見直しや授業方法の改善・工夫等を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

外部委員と協同して、シラバス・時間割に関することや、実習の実施計画の協議・学生の学修評価の改善等について改善・提言を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
新田 真一	関西学研医療福祉学院 事務長	令和4年4月1日～令和6年3月31日	
浅田 繁雄	関西学研医療福祉学院 次長	令和2年4月1日～令和6年3月31日	
北野 真奈美	関西学研医療福祉学院 作業療法学科長	令和3年4月1日～令和6年3月31日	
岡田 哲朗	医療法人社団岡田会(歯科医師)	令和2年4月1日～令和6年3月31日	①
佐守 友博	日本臨床検査医学会	令和2年4月1日～令和6年3月31日	②
乗松 純子	医療法人社団岡田会 作業療法士	令和2年4月1日～令和6年3月31日	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月・5月)

(開催日時(実績))

第19回 令和4年11月15日 13:30～14:30

第20回 令和5年 5月 2日 15:30～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

国家試験対策として小テストの活用等学生の学力向上に努め、合格率100%を目指すこと。

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会等において、連携企業・業界の方々の意見・動向・要望等を取り入れ、実践力のある人材を養成すべく、授業内容の見直しや、授業方法の改善・工夫等を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

①臨床実習目標が達成できるよう、実習時期および期間を調整したうえで計画を立案する。

②臨床実習では、指導者と連絡を密に取り、より効果的な作業療法臨床実習を展開する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨床実習Ⅰ	作業療法士である実習指導者のもと、実際の訓練場面やカンファレンス、関連他部門の実際を見学し、見学した内容を記録する。	医療法人 南風会 介護老人保健施設 万葉テラス、医療法人 新生会 高の原中央病院
臨床実習Ⅱ	臨床実習指導者の下で、対象者に適切な評価と作業療法計画立案の実践を学ぶことによって、これまで学習してきた様々な知識と体験とを統合する。	医療法人社団岡田会 山の辺病院
臨床総合実習Ⅰ	臨床実習指導者の下で、対象者への一貫した治療行為の実践を学ぶことによって、今まで学習してきた様々な知識と体験とを統合する。	奈良県立医科大学附属病院
臨床総合実習Ⅱ	臨床実習指導者の下で、対象者への一貫した治療行為の実践を学ぶことによって、今まで学習してきた様々な知識と体験とを統合する。	地方独立行政法人奈良県立病院機構 奈良県総合リハビリテーションセンター
3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 本校の研修にかかる諸規定の中の「他所への臨床および講義講演等の規定」で教員に対し以下の項目にて明記し、また、専門分野に関する研修会には参加するよう指導している。 (1)他所への臨床は情報収集ならびに本校における学生教育に活かすことを目的とする。 また、他所への講義講演は本人の資質向上となることを目的とする。 (2)学内他学科の講義ならびに系列(学校・病院・企業への参画については、奨励し評価するものとする。		
(2)研修等の実績 ①専攻分野における実務に関する研修等		
②指導力の修得・向上のための研修等 研修名:①第49回PT・OT・ST養成施設教員等講習会(連携企業等:厚生労働省及び(公財)医療研修推進財団) ②厚生労働省指定 臨床実習指導者講習会 期間:①令和4年8月15日～9月3日 ②令和4年8月6日・7日 対象:①リハビリテーション学科専任教員 ②実務経験4年以上の作業療法士・理学療法士 目的:①作業療法士養成校教員に対し、より高度な知識及び技能を修得させ、併せてリハビリテーションの質の向上に資すること。 ②臨床実習指導者として適切な指導ができること。		
(3)研修等の計画 ①専攻分野における実務に関する研修等 ①MTDLP基礎研修 (主催:一社 奈良県作業療法士協会)		
②指導力の修得・向上のための研修等 ①第50回PT・OT・ST養成施設教員等講習会(連携企業等:厚生労働省及び(公財)医療研修推進財団)		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育・運営活動の状況について、自己評価等を行い教育・学校運営の改善を図ることを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・人材育成・学校の特色・学校の将来像
(2)学校運営	運営方針・事業計画・運営組織の効率化。人事や賃金制度・意思決定システムの確立・情報システムの確立、効率化
(3)教育活動	教育目標、育成人材像、素養ニーズとの適合性、到達レベルの設定、カリキュラムの体系化・教育方法、授業評価、成績評価の基準、資格取得の指導体制
(4)学修成果	就職率・資格取得率の向上、退学率の低減、卒業生・在校生の活躍評価
(5)学生支援	就職支援体制、学生相談体制、学生への経済的支援体制、学生の健康管理、課外活動に対する支援体制、保護者との連携、卒業生への支援体制
(6)教育環境	施設・設備の整備、学外実習・インターンシップ、海外研修等の教育体制、防災に対する体制整備
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動の適正化、教育活動の正確な告知、入学選考の適性かつ公平な基準、学納金の妥当性
(8)財務	中長期的な財務基盤の安定化、予算・収支計画の妥当性、会計監査の適性、財務情報の公開の体制
(9)法令等の遵守	法令・設置基準の遵守と適正な運営、個人情報の保護対策、自己点検・自己評価の実施と改善、自己点検・評価結果の公開
(10)社会貢献・地域貢献	教育資源や施設を利用した社会貢献、学生のボランティア活動の奨励・支援
(11)国際交流	グローバル人材の育成に向けた国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価による学校運営や教育体制に関する指摘、問題点については、教職員会議により問題点の共有と改善策を検討し改善に努めている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
岡田 哲朗	医療法人社団岡田会(歯科医師)	令和2年4月1日～令和6年3月31日	職能団体
福田 邦彦	保護者代表	令和2年4月1日～令和6年3月31日	保護者
上田 健志	卒業生代表	令和4年4月1日～令和6年3月31日	卒業生
安井 誠	地域代表	令和2年4月1日～令和6年3月31日	地域代表

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 5月～6月に

<https://www.seitan.ac.jp/kg/profile/information.html>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が保有する情報の公開等に関し必要な事項を定め、情報を積極的に公開し、教育活動の改善や業界からの信頼の獲得を得ることを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の沿革と教育目標
(2)各学科等の教育	教育スケジュール、実習マニュアル
(3)教職員	選任教員数報告、平成28年度研修報告
(4)キャリア教育・実践的職業教育	入学前授業のプログラム、卒業後の研究指導
(5)様々な教育活動・教育環境	教育システム、設備紹介、就職指導
(6)学生の生活支援	提携不動産業者との要望すり合わせ
(7)学生納付金・学修支援	奨学金制度、学費分割納入相談
(8)学校の財務	関西学研医療福祉学院のホームページ
(9)学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書、第三者評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.seitan.ac.jp/kg/>

授業科目等の概要

(医療専門課程 作業療法学科) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			心理学	「こころ」の問題を考えるための基本的視座を学ぶ。	1・前	30	2	○			○			○	
○			倫理学	道德、倫理の本質、起源、発達などの基本を学ぶ。医療倫理を含む。	1・前	15	1	○			○			○	
○			社会学	人間の社会的行為と関連づけながら社会生活、社会組織及び家族等の基礎を学ぶ。	1・前	15	1	○			○			○	
○			教育学	教育の目的、本質、方法、及び制度、行政等の基礎を学ぶ。	1・前	15	1	○			○			○	
○			人間関係論	小集団の法則性を追求し、集団過程の原因を究明し、その原理を実際に適用する技術を実習する。	1・前	15	1	○	△		○		○		
○			数学入門	初歩的な四則計算の確認と方程式や関数の扱いを学ぶ。	1・前	15	1	○	△		○			○	
○			化学	物質の成分組織、構造、生成、分解などの基礎を学習する。	1・前	15	1	○	△		○			○	
○			物理学	運動学の基礎として力学に重点をおいて学習し、科学的思考を身につける。	1・後	15	1	○	△		○			○	
○			生物学	生命現象を対象にした学問の基礎を学ぶ。	1・前	30	2	○		△	○			○	
○			統計学	統計学の基本的な考え方を理解した上で、実際に各種の検定法を利用して演習を行う。	1・後	15	1	○	△		○			○	
○			保健体育	生涯スポーツを通して健康保持増進に役立てるための学習を行う。	1・前	30	1	△	△	○	○	△		○	
○			医学英語	専門分野で必要な基礎的な英語を学ぶ。	1・後	30	2	○	△		○			○	
○			解剖学Ⅰ(1)	人体の構造を中心に、各器官及び組織の形態について学習し、体表解剖学、人体標本を使用した実習を行う。具体的には総論と各論（骨、関節、靱帯、循環器）について学ぶ。	1・前	15	1	○			○			○	
○			解剖学Ⅰ(2)		1・前	15	1	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ(1)	人体内部の機能や構造について学習し、人体標本を使用した実習を行う。具体的には、筋と内臓（呼吸器、消化器、泌尿器、内分泌）について学ぶ。	1・前	15	1	○			○			○	
○			解剖学Ⅱ(2)		1・前	15	1	○			○			○	
○			解剖学Ⅲ(1)	中枢神経、末梢神経、自律神経、感覚器について学習し、人体標本を使用した実習を行う。	1・前	15	1	○			○			○	
○			解剖学Ⅲ(2)		1・前	15	1	○			○			○	
○			生理学(1)	人体の各機能の基礎的内容を学ぶ。学習内容は、総論と各論（細胞生理、筋、神経、感覚、循環、呼吸、消化・吸収、内分泌、生殖、代謝・栄養）からなる。	1・前	30	2	○	△		○			○	
○			生理学(2)		1・後	30	2	○	△		○			○	
○			生理学実習(1)	筋、神経、感覚、循環、呼吸等の機能や構造を理解するための実習を行う。	1・前	30	1	△	○	○	○			○	
○			生理学実習(2)		1・後	30	1	△	○	○	○			○	
○			運動学(1)	人体構造と機能を知るために、運動器を中心に正常状態と異常状態を学ぶ。具体的には総論（力学、運動器官、運動分析、動作分析）と各論（姿勢、歩行、呼吸運動、靱帯と肩関節を含め四肢の関節運動）について学ぶ。	1・前	30	2	○	△	△	○			○	
○			運動学(2)		1・後	30	2	○	△	△	○			○	

○		運動学実習 (1)	体表観察、運動分析・動作分析の実習を通して理解する。	1・前	30	1	△	○	○	○			○	
○		運動学実習 (2)		1・後	30	1	△	○	○	○			○	
○		人間発達学	人間に対する理解の基礎として、小児期・青年期・成人期・老年期の各期における身体と運動機能の発達、知的・心理的・社会的人格の発達を学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	
○		臨床心理学	主として精神疾患患者に対する心理的理解を深められるよう学ぶ。	1・後	30	2	○	△		○			○	
○		脳神経外科学	中枢・末梢の神経系の基礎的な知識を学習し、併せて神経疾患や病態の基礎的知識を学ぶ。	2・前	30	2	○			○			○	
○		一般臨床医学	臨床医学全般を概観し、救急救命医学や予防医学を含む基礎的知識を学ぶ。	1・後	30	2	○			○			○	
○		内科学	内科学の基礎的知識を学ぶ。具体的には総論と各論（循環器、呼吸器、消化器、血液、造血器、代謝、内分泌、腎、泌尿器、膠原病、アレルギー、感染症、中毒、物理的原因）について学ぶ。栄養学と薬学の基礎及び画像診断学を含む。	2・前	30	2	○			○			○	
○		整形外科学 (1)	基本的整形外科の基礎知識を学ぶ。具体的には、総論、各論（各部位の疾患及び外傷）について学ぶ。画像診断学を含む。	2・前	30	2	○			○			○	
○		整形外科学 (2)		2・後	15	1	○			○			○	
○		神経内科学 (1)	神経症候学並びに神経内科学及び脳神経外科領域でみられる疾患・障害の基礎的知識を学ぶ。具体的には、総論、症候学（末梢神経、中枢神経、筋萎縮、失調）について学ぶ。	2・前	30	2	○			○			○	
○		神経内科学 (2)		2・後	15	1	○			○			○	
○		精神医学(1)	精神医学の基礎知識を学ぶ。具体的には、総論、各論（器質性精神障害、機能的な精神障害、神経性精神障害、人格障害、児童期・青年期の発達障害、精神障害、老年期の障害）について学ぶ。	2・前	30	2	○			○			○	
○		精神医学(2)		2・後	15	1	○			○			○	
○		小児科学	小児の成長・発達と小児期によくみられる疾患を中心に学ぶ。具体的には総論と各論（循環器、呼吸器、消化器、血液、造血器、代謝、内分泌、胃、泌尿器、アレルギー、感染症、神経）について学ぶ。	2・前	30	2	○			○			○	
○		病理学	疾病の原因及び形態的変化を主要疾病と関連させながら基本的内容について学ぶ。	2・後	30	2	○			○			○	
○		障害福祉論	障害及び福祉に関する歴史的な背景を学び、基本的な内容を理解する。	1・前	15	1	○			○		○		
○		リハビリテーション概論 (1)	リハビリテーションの理念と社会的・地域的リハビリテーションを含めた包括的なリハビリテーション医学の基本的原則を学ぶ。作業療法の主な対象となる疾患について学ぶ。	1・前	15	1	○	△		○		○		
○		リハビリテーション概論 (2)		2・後	30	2	○	△		○		○		
○		公衆衛生学	公衆衛生とは組織化した地域活動を通じて、疾病の予防、生命の延長及び肉体的精神的健康の確保と増進を図る科学・技術であり、その基礎を学ぶ。	2・前	15	1	○			○			○	
○		作業療法概論	作業療法についてその全体像が把握できるよう総合的、体系的に学ぶ。	1・前	30	2	○	△		○		○		
○		基礎作業学	作業学成立の歴史的背景と作業学の構造及び作業分析と指導法を学ぶ。	1・後	30	2	○	△	△	○			○	
○		基礎作業療法 学実習Ⅰ	陶芸・木工の基礎技法を実習し、併せて作業分析や指導法を学ぶ。	1・前	30	1	△		○	○			○	
○		基礎作業療法 学実習Ⅱ	絵画・織物の基礎技法を実習し、併せて作業分析や指導法を学ぶ。	1・前	30	1	△		○	○			○	
○		基礎作業療法 学実習Ⅲ	手工芸の基礎技法を実習し、併せて作業分析や指導法を学ぶ。	1・前	30	1	△		○	○			○	
○		レクリエーション療法演習	レクリエーションには遊び、各種のスポーツ、芸能活動などがあり、室内で少人数で行われるものから、戸外で多数が参加して行われるものまである。これらの活動を通じて発散、昇華、洞察などの精神的変化が生じる。これについての実技を学ぶ。	2・前	30	1		○	△	○	△		○	

○			作業療法管理学	作業療法の臨床業務に必要な基本事項（職場管理、職業倫理、組織、マネジメント、医療安全等）について学ぶ。	2・後	30	2	○				○		○			
○			作業療法評価学概論	適切な治療及び指導を行えるよう、評価法の基本的事項について学ぶ。	1・前	30	2	○				○				○	
○			作業療法評価学(1)	適切な治療及び指導を行えるよう、画像評価を含めた評価法の基本的事項について学ぶ。	1・後	30	2	○	△	△		○			○		
○			作業療法評価学(2)		2・前	30	2	○	△	△		○			○		
○			作業療法評価学実習(1)	作業療法評価学で学んだ内容を実習を通して理解する。	1・後	30	1	△	△	○	○			○			
○			作業療法評価学実習(2)		2・前	30	1	△	△	○	○			○			
○			作業治療学Ⅰ（身体障害）(1)	身体障害に関する作業療法の総論と各論基礎知識と各論（脳血管障害、脊髄損傷、神経、筋疾患、リウマチ疾患、失調症、頭部外傷、切断、脱髄疾患、呼吸器疾患、熱傷、骨折等）について学ぶ。また、各疾患を実際に見ることと、併せて筋、感覚、循環、呼吸などの機能を理解する。喀痰等の吸引についても学ぶ。	2・前	60	4	○	△	△	○			○			
○			作業治療学Ⅰ（身体障害）(2)		2・後	30	2	○	△	△	○			○			
○			作業治療学Ⅱ（精神障害）(1)	精神障害に関する作業療法の総論と各論（機能性精神障害、器質性精神障害、神経性精神障害、児童期・青年期の障害、老年期の障害）について学ぶ。また、病院やデイ・センターなどの関連施設の見学を通して障害の理解を深める。	2・前	60	4	○	△	△	○			○			
○			作業治療学Ⅱ（精神障害）(2)		2・後	30	2	○	△	△	○			○			
○			作業治療学Ⅲ（発達障害）(1)	発達障害に関する作業療法の総論と各論（脳性麻痺、精神遅滞、自閉症、注意欠如多動障害、分娩麻痺、二分脊椎等）について学ぶ。また、正常児や障害児を実際に観察し、接することにより理解を深める。	2・前	60	4	○	△	△	○			○			
○			作業治療学Ⅲ（発達障害）(2)		2・後	30	2	○	△	△	○			○			
○			作業治療学Ⅳ（老年期）(1)	老年期に関する総論と各論（老化に伴う変化、廃用症候群、認知症、老人性精神障害を含んだ老人特有の問題）について学ぶ。また栄養学についても理解を深める。	2・前	60	4	○	△		○			○			
○			作業治療学Ⅳ（老年期）(2)		2・後	30	2	○	△		○			○			
○			作業治療学Ⅴ（日常生活活動）(1)	日常生活活動に関する技術論の基礎知識（定義、歴史、作業療法士の役割、生活様式とADL、指導理論）及び基礎技法（評価、指導計画、指導の実例）について学ぶ。さらに障害別の日常生活活動の評価や指導法を実習する（リハビリ関連機器を含む）。	2・前	30	2	○	△	△	○			○			
○			作業治療学Ⅴ（日常生活活動）(2)		2・後	30	2	○	△	△	○			○			
○			作業治療学Ⅵ（義肢装具学）	義肢、装具、リハビリテーション関連機器（自助具を含む）について学ぶ。基礎知識（定義、歴史、種類、構造、機能、作業療法士の役割、対象疾患及び障害）と基礎技能（製作、適合判定、訓練、追跡調査）の実習を行う。	2・後	30	2	○	△	△	○			○	△		
○			作業治療学Ⅶ（高次脳機能障害）	失語、失行、失認、遂行機能障害、注意障害、認知症などの高次脳機能障害を学ぶ。神経心理学や高次神経活動の基礎を含む。	2・後	30	2	○	△	△	○				○		
○			作業治療学Ⅷ（職業前関連活動）	職業前関連活動の基礎（定義、歴史、作業療法士の役割、職業リハビリテーションと作業療法）と基礎技法（評価、指導計画、指導の実例-職業前訓練を含む）について学ぶ。	2・後	30	2	○		△	○	△			○	○	
○			臨床実習技能評価Ⅰ	臨床実習Ⅰに向けて必要な知識と技能の整理と評価を行う。実習前後の課題（準備、OSCE、セミナー等）を含む。	2・後	30	2	○	○	△	○			○			
○			臨床実習技能評価Ⅱ	臨床実習Ⅱに向けて必要な知識と技能の整理と評価を行う。実習前後の課題（準備、OSCE、セミナー等）を含む。	2・後	30	2	○	○	△	○			○			
○			臨床実習技能評価Ⅲ（1）	臨床総合実習Ⅰに向けて必要な知識と技能の整理と評価を行う。実習前後の課題（準備、OSCE、セミナー等）を含む。	3・前	30	2	○	○	△	○			○			
○			臨床実習技能評価Ⅲ（2）	臨床総合実習Ⅱに向けて必要な知識と技能の整理と評価を行う。実習前後の課題（準備、OSCE、セミナー等）を含む。	3・後	30	2	○	○	△	○			○			

○		地域作業療法学(1)	地域包括ケアシステムや多職種連携の理解など、地域で必要となる基礎的な知識・技術を学ぶ。	2・前	30	2	○		△	○			○	△
○		地域作業療法学(2)		2・後	30	2	○		△	○			○	△
○		臨床実習Ⅰ(1)	作業療法士の指導の下に、各疾患、各年齢層の患者について実際の作業療法場面の見学を行う。実習施設は身体障害者(児)施設、老人施設、精神科病院、通所リハビリテーション施設、訪問リハビリテーション施設等である。	1・後	90	2			○		○	○		○
○		臨床実習Ⅰ(2)		1・後	90	2			○		○	○		○
○		臨床実習Ⅰ(3)		2・前	45	1			○		○	○		○
○		臨床実習Ⅱ	作業療法士の指導の下に、各疾患、各年齢層の患者について身体的、心理的、社会的状況を把握する。実習施設は身体障害者(児)施設、老人施設、精神科病院等である。	2・後	180	4			○		○	○		○
○		臨床総合実習Ⅰ	作業療法士の指導の下に、各疾患、各年齢層の患者について身体的、心理的、社会的状況を把握し、作業療法を行う。実習施設は身体障害者(児)施設、老人施設、精神科病院等である。	3・前	360	8			○		○	○		○
○		臨床総合実習Ⅱ		3・後	360	8			○		○	○		○
	○	スタディ・スキルズ(1)	学生として「学ぶ」ためには、基本的な「聴く」「読む」「書く」「調べる」「整理する」等が必要である。それらの力を段階的に学び身に付ける。	1・後	15	1	○	△		○		○	△	
	○	スタディ・スキルズ(2)		1・後	15	1	○	△		○		○	△	
	○	スポーツレクリエーション	健康寿命の延伸に向けてスポーツ未実施者に向けてからだを動かすことの喜びと健康的な社会生活の構築を図ることのできる指導者養成を目的とする。	1・後	15	1	○		△	○			○	
	○	レクリエーション概論	レクリエーションの意義・役割を理解し、計画をたてられるようになる。	1・後	15	1	△		○	△	○		○	
	○	障害者スポーツ論	障害者スポーツの概要を実際について学び、実技としてはレクリエーションを重視して取り組む。	1・後	15	1	△		○	△	○		○	
	○	作業療法理論概論	作業療法理論の歴史的な流れと現在の代表的な作業療法モデルについて学ぶ。	2・後	15	1	○	△		○		○	△	
	○	補完代替療法概論	音楽・絵画・園芸等を用いた治療法の概略を学ぶ。	2・後	15	1	○	△	△	○		○	△	
	○	卒業論文	臨床総合実習の担当ケース・レポートを論文の形式にまとめることで、学会発表等の予備訓練を行う。	3・後	15	3	○	△		○		○		
	○	作業療法総合演習	基礎医学・臨床医学・作業療法専門科目の知識の確認と習得を行い、国家試験に備える。	1・後	45	1	△	○		△	○	○		
合計			89科目	3330時間(161単位)										